

毎月第一週に配信する「今週の倫理」では、倫理研究所二代目理事長・丸山竹秋（一九二一—一九九九）のこ  
とばを掲載します。

電車に乗っている。七人がけの座席に、五人か六人くらいで、デンと腰かけ、股を広げている。

新聞か本（マンガ）に読みふけている。居眠り（またはそのふり）をしている。その前に人が来て、そわそわと立っている。（そこを、もう少し詰めてくれないかなというように眼が動いている。しかし坐っている連中は、知らん顔。傲然と、ふんぞり返っている。その半分以上は若い人たちだ。

前の座席でその様子を見ていた初老の紳士が二人、次の駅で降りる時、歩きながら会話していた。

「大国日本も、危ういな。エゴやぼんやりが多くなった。人の気持ちをもっと考えなくちゃね」

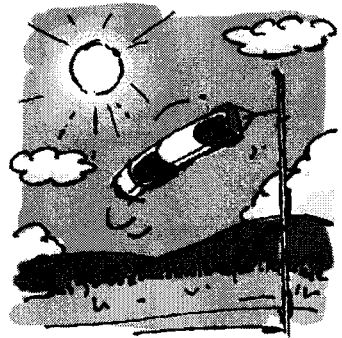
「わたしも同感だ。日本人は気づかないままに、いい気になりすぎているよ。恐ろしいことだ」

さて、ここで言いたいのは、人間は乗り物に乗っている時も、その正体を現わすということだ。全部とはいえないにしても、少なくともその一部は、自然に現われている。

電車に乗っていても、見る人は見ている。一ぺんの挨拶にも、一椀の飯の食い方にも、電話の応対一つにも、何にでもその人の状態は出てくる。

5月のテーマ | 今日の外に人生はない

今の「ひとつ」が大切だ



今の、このこの、このひとつ以外には人生はない。たくさんは、ひとつの集まりだ。だから一生涯といっても今の積み重なり以外のなものでもない。

「今やっている、その一つひとつに全力を込めよ」などと言うと、いかにも堅苦しいようだが、それは「今やっていることを粗末にするな」という意味である。今日のことを粗末にやっていると、明日のことも粗末になる。

そして、やがて一生のことが粗末になってしまうのだ。はじめに挙げた乗りものの例に執着するようだが、自分だけが楽をして坐っているというのは、自分のエゴの表明に他ならない。自分の利を守ることでは自分を大切にしているようだが、人生は昔から言われているように何といっても共存共栄である。一方的な、自分だけの我利我利では必ず衰えるし、滅びる。自分だけ坐ってマイナスを招く。うっかりしていて気のつかない時もあるが、そのときはすぐ「さあ、どうぞ」と譲る態度にかえよ。それが「当たり前」ではないか。

その「当たり前」ができない、気もつかないというのは「今のひとつ」を粗末にしていることだ。何でもないことのようにだが、そうした一面は、他の面にも大きく影響してくる。家庭や職場にも、さまざまな影を落とす。そしてこうした影が、広く民族の、そして地球の人類生活にも及ぶようになる。

『今の「ひとつ」が大切だ』より

五月一日「令和の世を生き様照へり 第一輪」  
5/1に義姉が世界をまわると、明るく義姉の輪